

行政視察報告書

令和 8 年 1 月

総務文教常任委員会

- 1 視察実施日 P 1
- 2 参加者 P 1
- 3 視察先及び調査事項 P 1
- 4 視察先の概要 P 1
- 5 調査事項の概要及びまとめ P 2
- 6 各委員報告書 P 3 ~ P 11

1 視察実施日

令和8年1月21日（水）

2 参加者

委員長 藤尾 潔
副委員長 大久保忠義
委員 長谷川幹雄、松本美和子、橋本匡史、中村龍治
随員 壺井初美、岸本孝司

3 視察先及び調査事項

視察先 兵庫県赤穂市
調査事項 (1) 学校給食センターについて
(2) 部活動の地域展開（移行）について

4 視察先の概要

赤穂市は兵庫県の西南端、岡山県との県境にあり、まちのほぼ中央を名水百選に選ばれた千種川が流れている。また、南は播磨灘に面し、海岸線は瀬戸内海国立公園の一角を占めている。気候は温暖で雨量が少ない典型的な瀬戸内海型気候に属している。市域は、先土器時代などの古代遺跡が多く残る北部、河口デルタ上に発達した旧城下町の中心部、塩田の開発によって開かれた南部、天然の良港に恵まれた坂越地区の4つの特色ある地区に大別できる。

(1) 人口と世帯数（住民基本台帳 令和7年12月31日現在）

人口 43,475人（男：21,013人、女：22,462人）

世帯数 20,621世帯

(2) 年齢別人口（令和7年1月1日現在）

		男	女	計	構成比
年少人口	0～14歳	2,322人	2,169人	4,491人	10.2%
生産年齢人口	15～64歳	12,514人	11,942人	24,456人	55.3%
老年人口	65歳以上	6,538人	8,694人	15,232人	34.5%
計		21,374人	22,805人	44,179人	100.0%

(3) 面積 126.85km²



※赤穂市ホームページ等から抜粋

5 調査事項の概要及びまとめ

(1) 学校給食センターについて

赤穂市の学校給食センターは、令和7年9月から稼働しており、配送校26校園に対して1日約4,600食の給食を供給する。

人・食材の動線やQRコードを読み取り学級ごとに計量して配缶できる機器やスチームコンベクションオーブンなど最新の機器が導入されている。荷受から下処理・調理・配缶・配送までの動線が交わらないで効率よく安全に給食を提供されており、戻ってきたコンテナでは、食器はカゴに入れたまま洗浄し、コンテナで保管されるシステムには感銘を受けた。

見学者を受け入れる前提で設計されており、見学ルートも広くて見やすく、この見学や疑似体験を食育に役立てられていた。

今後、加東市においても学校給食センターの老朽化やアレルギー対応など様々な対応をしていく中で、新設や建替えなどを将来について考えていけないといけない時期にある。

この行政視察で見聞きした事を今後の政策に生かして取り組んでいきたい。

(2) 部活動の地域展開（移行）について

赤穂市は、人口44,132人、中学校5校、生徒1,081人（令和7年2月28日現在）で県内では比較的似ていることから、部活動地域展開に向けて令和5年7月から認定地域クラブ活動の募集を始められるなど先進的な取組について、考え方や取り組み方を行政視察して参考にしたいとの思いがあった。

赤穂市では令和8年度の中学3年生が引退すると同時に学校部活動を終了して、その後は認定地域クラブ活動に所属して活動する地域展開を実施される。

行政視察を検討した段階では加東市では平日を含む全面移行は決定しておらず、その是非が課題でもあったが、令和10年度中学校総合体育大会後の全面移行を決定したことで、今回の行政視察では、地域展開を実施するにあたっての諸課題が行政視察のテーマとなった。

活動先となる、令和8年1月現在で登録の36の地域クラブや団体について会費・活動日数も資料により説明があり、早期に地域展開に向けた準備をされてきた状況が把握できた。

地域クラブの募集の難しさ、送迎などの活動場所までの移動手段、活動の施設や地域クラブの地域的な偏りなどの課題は、加東市でも同じ課題に直面すると考えられる。

国・県とも連携しながら、持続可能な状態で地域展開を進めなければならないが、子ども政策に力を入れている加東市として、この行政視察は非常に有意義であり、今後の動向を見守りながら政策に取り組んでいきたい。

6 各委員報告書

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会
委員長 藤 尾 潔

【学校給食センターについて】

昨年9月から稼働している最新の施設で、QRコードを読み取り学級ごとに軽量する機器や、スチームコンベクションオーブンなど最新式の機器が導入されていた。また衛生面でもハサップに対応するよう配慮がなされており、アレルギーに対しても専用調理室を設けられているなどの対応がされていた。

加東市でも、施設の更新を検討しているところであるが、施設改修で対応できる事項なのかどうか、費用面での比較など、総合的に研究を進めるべきであると考える。

【部活動の地域展開（移行）について】

視察を検討した段階では加東市では平日を含む全面移行は決定しておらず、その是非が課題であった。加東市でも全面移行を決定したことで、今回の視察の主課題は全面移行するにあたっての諸課題ということになったかと思う。

まず全面移行の理由だが、加東市で検討されていたのと同じ 平日と休日での別の指導が行われることで混乱が生じるというもので、現場の感覚では休日のみの移行というのは難しいであろうことが理解できた。

また、移行していくにあたっての地域クラブの設立状況などについての説明もあり、移行にあたっての環境整備について理解できた。

加東市においても、地域移行にあたっての受け入れ環境の整備に配慮できるよう、今後とも調査研究をすすめていきたい。

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会

副委員長 大久保忠義

【学校給食センターについて】

整備・運営内容の検討の中で、施設規模を将来の食数想定から想定をされて、延べ床面積との兼ね合いでの決定と、受け入れから検品検収・下処理・調理・食物アレルギー対応・計量から配缶・配送と、戻ってきた食缶等の洗浄など調理員動線・食材動線・専用容器動線に至るまで非常によく検討をされていた。

また、見学や体験をしてもらう事も十分に検討されていた。

赤穂市では幼稚園まで給食が供給されていた。

地産地消に取り組んではおられるが、調達のしやすさなどの理由により、こだわりすぎないで食材調達をされていた。

【部活動の地域展開（移行）について】

部活動地域移行計画当初から担当されている方により様々な経緯を経て、現在に至っている。南部と北部で地域性があり、交通機関・施設や受け入れ団体に偏りや差があるのは、加東市でも同じような課題があると感じた。特に送迎を含む交通機関が生徒の行動を制限するようにならないように考えることも課題であると感じた。

加東市もまだ地域展開に舵を切って間もないですが、赤穂市の取り組みと実績を見ると参考になり、勇気づけられるところもある。

子ども政策に力を入れている加東市としては、部活動地域展開はしっかりとやらなければならない施策であるので、この学びをこれからに活かしていきたい。

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 長谷川 幹雄

【学校給食センターについて】

一番に度肝を抜かれたのは、設備の素晴らしさである。2025年9月にできたばかりの非常に綺麗な給食センターである。見学ができるように設備を整えて設計しているし、子どもたちの学習用の設備もあり調理実習もできるようになっていて至れり尽くせりである。2026年4月からアレルギー対応の設備が稼働するように言われていた。アレルギー対応に関しては、保護者だけでなく現場で携わっている学校(教職員)を交えて取り組んでいるとも言われていた。なるほどと感心した。最終的に総額約28億円の建設費を使ったようだ。それでも良いものを後世に残すための先行投資だとの思いが伝わってきた。衛生面にも気を使い、入庫から調理、そして搬出、回収をして洗浄までが他の部所と交わることのないように設計されており、洗浄も人の手に触れることなくカゴに入れたまま洗浄するという優れもので、翌日それを使用するとの説明であった。また、地元の理解と協力により、地産地消の食育推進にも力を入れており、毎月「ふるさと給食」を提供している。昨年からは赤穂産シャインマスカットを提供しているとのことであらやましい限りである。上を見ればきりが無いが、よくここまでできたものだと思う。

今後、加東市も給食センターの更新をしなければならないが、これほど素晴らしい設備を設置できるかわからないが、是非頑張って子どもたちに誇れる給食センターを作って頂くことを願うばかりである。

【部活動の地域展開（移行）について】

兵庫県のなかでこれほど早く地域展開が進められたのは、担当者の熱意とこの取組に賛同された人たちがいたからだと思う。まず、土日からまずは地域展開を2022年12月から進めている。

国が進める地域展開も前期令和8年から10年度までに、全国全てで土日は必ず地域展開とし、平日についても中間評価の段階で改めて取組方針を定め更なる改革を推進し後期令和11年から13年度で平日も地域展開を進める方針のようだ。課題としては、地域展開により活動場所への移動手段の確保が重要で、これがうまくいかなければ、保護者の費用負担が多くなることである。それに伴って、活動費の負担軽減、指導者の支援など、経済的困窮世帯の生徒への支援等推進事業にも多くの課題がある。

兵庫県でもこれから地域展開が進んでいくと思うが、国の支援や兵庫県、市の支援がなくては地域展開が進まない。しっかりと市としても兵庫県や国に対して要望をしていくべきだ。

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 松本美和子

【学校給食センターについて】

赤穂市の学校給食センターは2025年9月新設され、高度な衛生管理、動線確保と明確な区分け、食育の推進、食物アレルギー対応、環境への配慮、防災・災害支援機能などに重点が置かれている。計画の段階から、「新学校給食センター整備委員会」を設置し、構成メンバーに現場の職員や調理員を入れ、新センターの施設機能を想定し、作業動線や業務改善に取り組まれて来られた。選定事業者の提案書類に基づき、人・食材の動線に配慮した各室や調理機器の配置、床や壁の仕上げ、調理備品等を確認し、設計協議に対する提案を行うとともに、新施設での運営を見据えた人員配置、調理・作業工程を検討されて来られた。配送は委託であるが、調理は直営である。スチームコンベクションオーブンの採用により、あげるだけだったシューマイを蒸すこともでき、鶏肉などもふっくら仕上がる。ご飯やパンについては地元のパン屋さんが手をあげてくださり、愛情のこもった地元のお米や出来立てのパンを提供されている。効率化を考え、かごとと洗浄やコンテナ保管により、食器を出し入れする手間が省け衛生的でもある。アレルギー対応には乳、卵の同時調理は行わないなど事故防止を徹底されていた。以前は自由な行き来をしていたが、下準備や煮る作業の部屋を完全に独立させ、自由な行き来ができない分人員は増員させた。26億7千万円の予算だったが、資材高騰のため28億円で完成した。湯気が上がる調理場であっても、空調整備がされ、以前は熱中症になる調理員もおられたが、職場環境も非常に良くなったと説明された。加東市の給食センターの夏場はサウナ状態だと聞いている。加東市も、老朽化した給食センターをこどもたちのため、職場環境のためにも一日も早く整備しなければならないと感じた。

【部活動の地域展開(移行)について】

赤穂市では、部活動の地域移行に早々から取り組まれている。こどもや親のアンケートからも部活動は週3回程度がちょうどよい。部活動や地域移行で望むことは、勝つことではなく、「仲間と楽しく活動したい」が7割以上であった。学校の先生で、部活の指導を希望した方は5名程度だった。しかし、余裕があれば協力したいと考えておられる先生は大多数であるとのこと。自分が主になるのではなく、手伝いであればできるし、したいと考えておられるとのことでした。受益者負担として、保護者は地域移行後の負担は3000円程度なら負担してもよいと考えている人が多かった。負担が難しいご家庭は国の援助も想定されているので、スムーズに移行出来そうな見通しがたっている。課題としては、北部からの送迎が一番の課題で神姫バスも減便され、スクールバスもないことから、夕方の送りの協力を大学や企業に働きかけておられるとのこ

とでした。部活動の地域移行は少子化の対応が一番の目的であるのに、まるで教職員の働き方改革の一環であるように誤解がされているのではないか、少子化でこのままだと、団体競技ができない、休部や廃部、通学先にやりたい部活動がないなどの問題が出てきている。そのための対応であると説明があった。今回部活動の地域展開(移行)について行政視察させていただき、より一層理解が深まった。

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 橋本 匡史

【学校給食センターについて】

目的

地産地消の推進、食育の充実、食物アレルギー対応調理ラインについて現地調査を行い、加東市が将来的に学校給食センターを整備する際の参考とすることを目的とした。

当該給食センターは、2025年9月に新設され、配送校6校園に対して1日約4,600食の給食調理・配送を開始している。毎月1回実施されている「ふるさと給食」では、赤穂市産や兵庫県産の食材を積極的に使用しており、地産地消の取組が着実に実践されている。

食物アレルギー対応（令和8年4月から）については、専用の調理室を設け、アレルゲンを除去した給食を個別に調理しており、安全性への高い配慮がなされていた。また、調理工程ごとに専用室が設けられた調理ラインは動線が整理されており、非常に効率的かつスムーズに調理が行える環境であった点は大変参考となった。

さらに、配送前のコンテナ室や洗浄室における消毒・保管体制など、徹底した衛生管理が行われており、給食センター運営における重要な環境整備について多くを学ぶことができた。

施設2階には食育展示コーナーが設置され、児童生徒が食について楽しく学べる工夫がなされているほか、調理・製造ラインの見学が可能となっており、食育推進の観点からも有意義な施設であると感じた。

今後、加東市において学校給食センターの新設計画が検討される際には、本施設は大いに参考となる視察であった。また、赤穂市が愛知県豊川市の給食センターを視察した経緯についても伺い、先進事例を積極的に取り入れる姿勢の重要性を認識でき、機会があれば他市の先進事例についても視察を行いたいと感じた。

【部活動の地域展開（移行）について】

目的

兵庫県内において、部活動の地域展開（地域移行）に早期から取り組んできた先進事例を学ぶことを目的とした。

はじめに、国および兵庫県の取組について説明をいただき、制度の背景や方向性について非常に分かりやすい説明を受けることができた。2026年度中の地域展開実施に向け、令和4年度から検討を開始し、「認定地域クラブ」の募集を行った結果、令和8年1月現在で36のスポーツ・文化団体が登録されているとのことであり、早期から計画的に取り組まれてきた成果であると感じた。地域総がかりでの展開を進めるため、保護者、体育協会、スポーツ少年団等へ

の働きかけをはじめ、市ホームページや市広報紙を活用した情報発信など、あらゆる手段を用いて丁寧に取り組を重ねてこられた点は大変参考になった。

また、小学生・中学生およびその保護者を対象としたアンケート調査を実施し、ニーズを把握した上で推進資料として活用されており、実態に即した取組が行われている点も参考となった。

令和10年度に加東市において部活動の地域展開を完全施行するためには、こうした先行事例を踏まえ、児童生徒や保護者のニーズ調査を丁寧に行うとともに、保護者や関係団体への継続的な説明と協力要請を進めていく必要があると思う。

行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 中 村 龍 治

【学校給食センターについて】

まず地産地消については食材提供が可能な地元農家の農産物を使用する程度でブランド化された野菜や特産品、有機野菜等の使用は特に意識していないとの事で、食材費と運営的な問題が考えられると思った。赤穂市産、兵庫県産の食材を心掛けているが現況は無理という事で本市も今後しっかり検討、対策が必要だと考える。提供している地元産パンについても1位評価である事は素晴らしいと思う。

食物アレルギー対応策については除去食（乳・卵）への対応が専用調理室を活用し、又様々な調理機器、器具の使用でしっかり取り組まれていると思う。4月の提供開始に向けて課題の整理・検討・運用までの努力を感じた。建設整備については、約28億円と伺ったが予算はさておき2年かけての計画で学校を含め、調理技術者の意見を含め設計された素晴らしい施設だと思う。

【部活動地域展開（移行）について】

まず、部活動の地域展開に赤穂市では一切、不安・苦情がないと聞き驚いている。地域も含め積極的な取り組みができている事が素晴らしいと思う。「36」ものスポーツ・文化団体の協力もあつての事でもあるがスケジュールもしっかり立てることができての展開であると考え。アンケート調査もしっかりされており取り組み全体に熱意を感じた。